

地方創生カフェ通信

Vol.2

地域

を楽しむ。
で学ぶ。
で活躍する人になる！



もくじ

ボランティア活動の状況	1
被災地支援のその後	2
被災地の地場産業を考える 「球磨焼酎」と大学生	5
菊池市佐野地区での過疎集落支援活動 次のステップへ	9
地域で学ぶということ 学際科目「魅力開発プロジェクト」で牛深へ	13
ボランティア活動を考えている後輩へ 先輩たちからのメッセージ	15

ボランティア活動の状況

2021年度も、学生たちはボランティア活動や地域活動に参加しました。コロナ禍ということもあり動きが制限される中、それでも地域に関わり続けることでの刺激や学ぶものがあったのではないのでしょうか。

熊本創生推進機構でボランティア登録した学生の状況 (2022年2月末日)

登録者数

- ・2021年度新規登録 **41名**

活動者数

- ・復興ボランティア活動支援 **55人**
- ・地域活動及び
企業等団体との活動 **87人**

活動内容

- ・仮設住宅（球磨村）でのサロン活動
- ・球磨焼酎の販売促進活動
- ・八代市坂本での環境整備活動、熊本シティエフエムとのラジオ収録(被災地坂本地区の情報発信)
- ・支援者向けマスク製作
- ・過疎集落維持、農地維持に向けた農村支援
- ・高齢者のワクチン接種予約サポート
- ・熊本市転入ママサークル「くまてん」の活動支援
- ・子飼橋交通安全キャンペーン

2021年度の活動は、
日本財団ボランティアセンター
(Gakuvo)
との連携で実施しました。



菊池市佐野地区での農業支援。熊本地震からもう5年。過疎集落維持活動は、立ち上げた学生たちから後輩へ引き継がれています。



春と秋の交通安全期間には、学生たちが子飼橋交差点でキャンペーンに参加しています。実際に自転車の走行マナーを注意する側になると、自分の乗り方を見直す機会にも・・・。

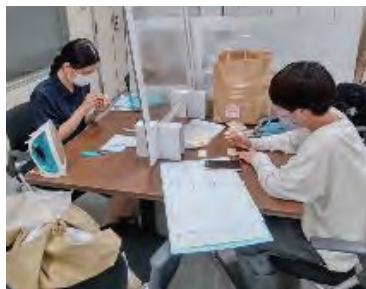


球磨焼酎の蔵元さんに被災当時の話や球磨焼酎の仕込み、こだわりについて教えていただく。

被災地支援のその後

マスク製作

現地での活動だけがボランティアではありません。できることをそれぞれがやる。マスク製作に参加する学生たち。マスクに添えたメッセージが、被災地で活動する支援者の皆さんに届きますように。



学生の声

ちょうどコロナが流行り始めた時、課外活動が全面禁止になってボランティア活動ができなかったので、家でもできる作業としてこの活動を見つけ、参加しはじめました。メンバーは学部も学年もバラバラで、色んなおしゃべりをしながらちくちく縫い物をする時間はシンプルに楽しいです！おうちに布を持って帰って黙々と作業し始めると、いつの間にか何時間も経っていることもあります。完成したマスクを積み上げるとすごい達成感！しかし浮上してきた問題は、元々マスクを送る予定だった被災地の復興が進み、もう渡す必要がなくなったことです。もっとスピーディーな作成や、別のお渡しできる場所・ニーズを見つけることが必要だと感じています。

(理学部 3年 上村明日香)

学生の声

私がマスク製作に参加し始めたのは、ボランティア活動報告会での先輩の紹介がきっかけでした。コロナ禍で地域の方々と直接関わるようなボランティア活動は減っています。しかしこの活動はコロナ禍からできるボランティアだと思います。直接会えなくても誰かが使ってくれているということがすごくやりがいになっています。暖かい雰囲気のある活動の一員となれてすごく良かったです。マスクとマスクケースという形で地域の方々に元気やパワーを送っていたら嬉しいです！

(教育学部 養護教諭養成課程 1年 匿名希望)

被災地坂本からラジオにのせて

令和2年7月豪雨災害を機に八代市坂本で活動をしている学生たちが、ラジオ放送に挑戦をしています。

学生の声

私たちが現在放送している「坂本 FM 大作戦!」は、令和2年7月豪雨をきっかけに始まりました。坂本は、八代市の球磨川沿いにある地域で、豪雨の被災地です。その豪雨の際、坂本ではテレビが見れず、リアルタイムの情報を得ることができませんでした。被害を少しでも減らすためには、情報を得ることは必要です。そこで、思いついたのがラジオです。今はラジオも、インターネットサイマル放送があり、インターネット上で聞くことができます。また、このラジオをきっかけにインターネットに慣れて



もらうことができれば、SNS などを使って情報収集、発信の一步にもなります。もしものときに自身で情報を得て、命を守る適切な行動を取ってもらうためにも、まずはラジオを聞く習慣をつけてもらうことを目的に私たちは活動しています。

私自身喋ることが得意ではないため、収録のときはいつも緊張してしまいます。それでも、坂本の方々と関わっていく中で「被災の記憶を風化したくない」という坂本の方々の思いを強く感じ、少しでも力になればという思いで活動しています。実際に坂本に赴く機会もありますが、赴くたびに自然と人間の関係について考えさせられます。

ラジオを行っていくなかで難しいと感じているのは、聞き手が見えないことです。始まりは坂本の方々にラジオを聞いてもらうためでしたが、実際に自分たちの声がどれだけの人に届いてい

るのかというのは分かりません。自分たちがラジオを制作していくなかで、多くの方に会っていきことで認知を広めることがこれからも必要だと思っています。

このラジオは、坂本の方々がもしものときにラジオを使えるようになることを目的に始めましたが、坂本という場所と人、坂本内外に住む人たちを繋ぐラジオでもありたいと思っています。いつかは坂本での公開収録を行い、坂本に住んでいる人だけでなく、かつて坂本に住んでいた人も集まって話せるような機会を作りたいと考えています。そして、坂本のこれからを考えるきっかけにもなればと思っています。(文学部総合人間学科3年 貞明春歌)

令和2年7月豪雨の爪痕は、まだ球磨川沿いで確認することができます。鉄道の被害や自宅のどこまで水が来たのかを教えていただきながら、この情報をどうやって発信していくのか考えました。

ラジオをきっかけに地域の方とお話して、抱える複雑な思いを知り、発信できたことがこの活動の一番の意義だと思っています。復興していく嬉しいニュースが届く中でも、災害から変わらず手つかずの部分があります。そしてそのような現実の中でいかに生活を再建するか、そして地域をどうしていくかに不安を抱える方々があります。復興を喜びながら、しかし災害を風化させないように、何よりも「地域の方の声」を市内の人にも届けていきたいです。コロナ禍ということもあり、思うような活動はできていません。しかし、ラジオを通して、坂本を離れた人と坂本に残った・帰った人々を繋げられたらと思います。

(文学部総合人間学科3年 諏訪原夏海)



普段の球磨川から当時の水量が想像できない。仮復旧した道路から球磨川をのぞむ。(八代市坂本)





被災後の人吉市内の様子。人吉市街地の被災状況を目の当たりにして、車内が静かになったのを思い出します。

被災地の地場産業を考える

「球磨焼酎」と大学生

令和2年7月豪雨災害で被害を受けた、人吉球磨地域は球磨焼酎の生まれる場所です。

地場産業の被災、被災前から続いていた消費量の落ち込みを打開するため、学生たちが2020年度から活動を始めています。2021年度は、その取り組みを教養科目「地方創生プロジェクト演習」の中に取り入れました。

2020年度に活動を始めた学生が、地域ブランド総選挙（特許庁）で提案したのは販促会社の立ち上げ。2021年度はこの会社を立ち上げるべく、法学の先生方のお力を借りて「起業する」ことも学びながら、球磨焼酎の販促活動を行いました。

被災後、学生たちがボランティア活動をしたころの人吉球磨



年度ボランティア活動に参加した球磨焼酎の蔵元さま。ここから事業を立て直すということがどれだけ大変か、何度も考えさせられました。



教養科目「地方創生プロジェクト演習」には、38名の学生が参加しました。人吉市に行ったことがない、焼酎を飲んだことがないなど、スタートは様々。未成年者は人吉球磨の観光提案や SNS での情報発信の方法を探り、20歳以上はカクテル考案などを。



ガラ・チョコデザイン コンペティション2021

ガラ・チョコデザインを大募集！！

募集期間：2021/10/19(火)10:00～11/19(金)23:59

※応募資格は問いません。※応募作品は、本コンペティションの審査員による審査の対象となります。審査の結果は、本コンペティションの審査員による審査の結果に基づき決定いたします。

- 最優秀賞 1名
賞状、旅行券5万円分、球磨焼酎、ガラチョコ
- 球磨焼酎酒造組合賞 1名
賞状、球磨焼酎、ガラチョコ、Tシャツ
- 球磨焼酎酒造組合「グーテンベルク」賞 1名
賞状、「あゆの里」宿泊券、ガラチョコ
- 熊本大学「Instagram」くまぐま「賞」1名
賞状、学生考案球磨焼酎グッズ、ガラチョコ
- 奨励賞
賞状、球磨焼酎グラス又はタンブラー等

※本コンペティションの審査員は、球磨焼酎酒造組合の代表者、熊本大学の教職員、球磨焼酎の愛好者、球磨焼酎の専門家などから構成されます。また、本コンペティションの審査員は、球磨焼酎の愛好者、球磨焼酎の専門家などから構成されます。

10月19日から1か月間で開催した、ガラチョコデザインコンペティション。販促班の学生たちが企画し、全国から44件の応募がありました。



最優秀賞に輝いた作品。

ガラ・チョコのデザインに込めた想い：

豊かな自然・球磨川と共にある人吉球磨、そして球磨焼酎。ガラとチョコが流水紋を纏い、球磨焼酎を包み込みます。球磨焼酎をこのガラ・チョコで呑むその時に、自然の恵みをいただく、共にある、そんな想いが少しお酒と共に流れ込みますように。



Instagram を運用するにあたり、学生たちが考えた「くまぐま」のロゴマーク。色は球磨焼酎酒造組合のカラーに合わせ、くまが来ている服には球磨焼酎のマークが。



「くまぐま（球磨焼酎×熊本大生）」の Instagram。学生たちの取組みや球磨焼酎の PR 動画、ガラチョコデザインコンペの受賞作品など様々な情報発信を行っています。



自宅できるお手軽カクテルを、
ということで「メロンソーダカクテル」。
常圧蒸留の球磨焼酎をつかって、
見た目もかわいく。

こちらは「樽コーク」。
樽熟成の球磨焼酎を
使って飲みやすく。



HINOMARU&LIBCAFE (熊本市) 様のご協力をいただき、
11月に開催された「バルウォークくまもと」で学生考案の
カクテルが提供されました。



六調子酒造さんでブレンド体験。蔵を継いだ理由、仕込みへの想いなど、
ここでじゃないと聞けないことがたくさん。球磨焼酎蔵ツーリズム協議会で
体験プランが再開される日には、多くの方にいろんな蔵元を巡って
もらいたい・・・。



令和2年7月豪雨で被災した、一期屋さん(人吉市)でラベル作成体験の
ブラッシュアップ。ラベル作成に必要なスタンプの多くが水に流され、
ようやく体験ツアーのコンテンツを再確認です。

ラベル体験で作った学生の作品。
オリジナルラベルで、球磨焼酎をもっと楽しく。





水害で被災した清流山水花あゆの里さんへ。リニューアルオープンした館内にある球磨焼酎専用スペースに圧巻。



11月に開催された旅館フェス「大のれん市」へ参加。考案するグッズの試作品を前にアンケートを取りました。



球磨焼酎だけではなく人吉球磨のいいところをとにかく集めて発信する！SNS班も伝統工芸に触れながら、その魅力を発信。



カクテル班は割材を求めて農家さんへ。河内の青みかんを使ったカクテルは、もらうだけではなく農作業にも参加させていただきました。



観光班は観光アイデアを見つけに人吉へ。着物をきてまちを散策したり、お茶屋さんに声をかけていただいたり。いろんな方と新しい出会いがありました。(人吉市の立山商店さんにて)

蔵元様、球磨焼酎酒造組合、球磨焼酎蔵ツーリズム協議会、割材を提供してくださった生産者の皆さま、カクテル提供にご協力をしてくださって店舗の皆さま、講義にもご参加いただきました行政の皆さま、「起業」にあたりどうしたらよいのか講義を引き受けてくださった先生方。たくさんの方々にご協力していただいた講義&活動となりました。ありがとうございました。